

## 第2回 直方市中心市街地活性化協議会 議事録

平成20年2月28日15時00分より、直方商工会議所4階大ホールにおいて第2回直方市中心市街地活性化協議会を開催した。

委員の総数 29名 出席委員 24名

定刻、前記のとおり出席があったので、事務局より開会を宣し、内藤会長の挨拶の後、事務局より、今回より3名の委員就任がある旨が報告され、紹介がある。その後、協議会委員に対して委嘱状の交付が行われ、内藤会長が議長となり、議事に移る。

### 議 事

#### (1) 検討手順について

事務局より、検討手順について以下のとおり説明がなされる。

##### ① 前回の協議会の検討事項として

- ・ 協議会の役割について（基本計画の策定とその実施に関して意見を述べること）
- ・ 基本計画策定の目的について（街なか居住の推進及び中心市街地に賑わいを創出すること）

##### ② 今回の検討予定として

- ・ 直方市から基本計画骨子の報告と説明
- ・ 基本計画策定の背景についての理解を深める
- ・ 協議会の今後の検討方法について

##### ③ 今後の検討課題として以下が想定される

- ・ 基本計画の評価と民間事業の提案
- ・ 基本計画素案の提出と説明（国との協議に合わせて修正・加筆等）
- ・ 市が行うパブリックコメントの報告と評価

#### (2) 直方市中心市街地活性化基本計画（骨子案）の報告について

直方市商工観光課 小林課長より、標記について以下のとおり報告がなされる。

##### 中心市街地の特性・現状

- ・ 城下町時代→長崎街道→石炭産業時代→製造業・地域商業繁栄という約400年の歴史性を持つ
- ・ 現在の商店街も歴史的な積み重ねの上で複合市街地が形成している（九州でも有数の長いアーケード街を持つ）
- ・ 商店街での空洞化が進む（空き店舗率の増加、歩行者数の減少）
- ・ 中心市街地の地価下落が進む

##### 特性・現状を考慮した今後のまちづくりの方向性

- ・ 自然豊かな街（山と川に囲まれた街）
- ・ 歴史・文化のある街（城下町時代からの歴史・文化の再認識）
- ・ 健康な暮らしができる街（医療施設の充実、地産地消の街）

- ・ 子育てがしやすく高齢者が安心できる街（子育て、高齢者支援施設が充実した街）
- ・ 生活の充足が得られる街（回遊性のある街）

中心市街地活性化に向けた事業として想定されるもの

- ① 市街地の整備事業
  - ・ 須崎町土地区画整理事業（市）
  - ・ 勘六橋架け替え及び関連事業（県）
  - ・ 床上浸水対策特別緊急事業（国、市）
  - ・ 公共下水道整備事業（市）
- ② 都市福祉施設の整備
  - ・ 筑豊病院駅前移転（民間）
- ③ 街なか居住の推進
  - ・ 都市型住居整備事業（民間）
- ④ 商業の活性化等
  - ・ サンリブ直方店リニューアル(民間)
  - ・ 空きビル再生事業（民間）
  - ・ 商店街の各種ソフト事業（民間）
  - ・ 駅前立体駐車場整備（民間）
- ⑤ 公共交通の利便増進
  - ・ 交通結節点改善事業（市）
- ⑥ その他
  - ・ 遠賀川親景施設整備（国）

### (3) 基本計画の背景について

中小企業基盤整備機構 中心市街地商業活性化アドバイザー 久場氏より、直方市の総合計画との関係、平成 11 年と 17 年に市が行った市民意識調査から読み取れる市民の意向、旧基本計画の主たる事業の総括を元に基本計画の背景について説明がなされる。

また、その中で、市民ニーズの把握の重要性が述べられ、協議会としてアンケート調査事業を行うことが提案された。事務局で内容等をつめた後、再度、協議会に提出することとなった。

以上により、議事が終了したので 16 時 30 分閉会した。